



川 面 が 丘 10 月 号

令和3年（2021年）10月 1日 宝塚市立宝塚小学校

校長 藤山 昌生



朝夕すごしやすくなり、街中ではハロウインのジャック・オー・ランタンを目にする季節となりました。近年、子どもたちからも「家でハロパ（ハロウィンパーティー）するねん」という言葉を聞くことがあります。すっかり、秋の風物詩の1つとして定着してきているのでしょうか。私にとっては、秋といえば近所の神社の秋祭り。小さな地区でしたが、子どものころからのぼりを立てたり提灯を飾ったりと、大人と一緒に作業をするのが楽しみでした。宝塚小学校区にも神社があり、だんじりがあり、私もだんじりの曳航を楽しみにしていましたが、このコロナ禍での実施は難しいことでしょう。でも、私が子どもころ大人教えてもらったことを今でも忘れず覚えているように、行事や地域のつながりの中で子どもが学ぶことはとても多いと思います。地域の先輩として、今の子どもたちに学校では学べないいろいろなことを、教えていただきたいと思います。ダメなときは、愛をもって厳しく叱ってやってください。

10月は1年間の折り返し地点となります。9月末で緊急事態宣言も解除となりましたが、感染症対策を引き続き徹底しながら、これまで制約を受けていた教育活動も再開していきます。

東日本大震災のあとにも注目された、逆境や困難に適応していく「レジリエンス」。これは何があってもビクともしないようなメンタルの強さより、つらい経験をしたり落ち込んだりしたとしても気持ちを立て直すことができる「しなやかさ」と言われています。

学校ではコロナとうまく付き合いながら、集団で学び、集団で生活する場です。みんなで何かをやっていると、ものごとがうまくいかなくても、周りの友だちや先生から、「大丈夫、次はうまくいくよ」「ドンマイ！」というポジティブな言葉で、「よーし、もう1回がんばろう」と前向きな気持ちになります。また、「いきなりすべてを完璧にこなすのは無理だから、少しずつやってみようよ。」「先生の真似をしてみて」「ここまでできたね」などの言葉は、少しずつ成功体験を重ねたり、がんばっている過程をほめられたりすることが、子どもたちの自己肯定感を高めていくこととなります。困難に出会ったときに「しなやかに」対応できる力を高めていくためにも、学校でもそして家庭においても、子どもたちの自己肯定感を高めるような言葉かけをしていきたいですね。

